

ジュニア部門 〈母への思いに関する作文〉

小学生部門 佳作

母へのおもい

白山市立北陽小学校

若^{わか}狭^さ里^り緒^おさん

〔応募動機及びコメント〕

朝、先生に呼ばれて行ってみるとおどろくことに「母への思い」で賞をとったという報告がありました。最初聞いた時は何がなんだかわからなくて、声が一言もでなかったけど、写真をとってもらった時、うれしさがだんだんときみあげてきました。

お母さんへ本当にいつもありがとうございます。なかなかはずかしくて言えないけど本当に感謝しています。お母さんの子どもで本当によかったと思ってるし、一人っ子に産んでくれてすごく私は幸せ者だと思っています。おこっているお母さん、喜んでいらっしゃるお母さん、そんなお母さんが私は大好きです。

普段の生活でこんな恥ずかしいことは書けないけれど、夏休みの宿題でこんな課題の宿題が出たのでいつも言えないことを書こうと思いました。

私の生まれた日に母は中学校の教師なので顧問をしているバスケット部を見ていました。その時から私はボールの音を聞いていたのかもしれない。もうその時には母はお腹が大きかったのでいつ生まれてもおかしくない状態だったのに、部活をするなんてって私は思ったけど、これも母なのかなって今になって思います。だって母は昔バスケットで日本一になった選手だから。こんな母に見せられて私は今、ミニバスをやっています。小さい頃から両親が遠征に行ったりして四日ぐらいなくて一人にしたらだめだからって理由で能登にいるおばあちゃんの家にも泊まったりしていた私だから最初、別に父や母が仕事に行っている間バスケットをやってもいいかなって思いました。だけど今になっては少しさみしい時があります。五年生の時、みんなのお母さんが来てるのに私の母だけ応援に来てくれなくて少しさみしかったです。お楽しみ会でバーベキューとかする時も母がなくて少しさみしかったです。でも、年に一回絶対に来てくれる遠征がありました。その遠征に来てくれると、いつも以上にがんばれたしすごくうれしかったです。六年生になってからは、最後の年といって遠征にできるだけたくさん来てくれるし、私にすごく気を使ってくれます。これまでがまんしてきたから母が来てくれたらとてもうれしくなると思うし、来てくれなかったら少しだけさみしくなるんだと思いました。こうして六年間バスケットをやってきてやめたくなる時もあったけどやめさせてくれなかった母、一生懸命やっているのがんばれて応援してくれた母が私は大大大好きです。

こんなことを思うと私は一人っ子でよかったなと思って思いました。姉や妹がいたとしたら、母にイヤっていうほどあまえれなかったと思うし、私だけを見てくれなかったと思うからです。でも時々私と母はすごく大きなケンカをします。いつもケンカをした後は二人ともおこってしまっ

て口をきかずにその日が終わってしまうけど、おこっている気もちの中で少しはごめんないっていう気もちがあるので、すぐにごめんないと言えるようになりたいと思います。ケンカするほど仲がいいというので、これからもケンカをするとは思いますが、それ以上に私の味方になってくれたり、私にいろいろなことを経験させてくれたりしてくれるんじゃないかなって思います。

いつもがまんしている私だけど、たまに両親が二人ともお休みでゆっくりしている時、お出かけしている時、そんな日が私はすごく大好きです。何をしても笑いがこみあげてくるし、さみしい思いをしなくてもいいからです。なかなかこんな日はないけれど、たまくにだからいいんじゃないかなって思います。毎日のように学校から帰ってくると、

「おかえり〜」
って言うってむかえてくるお母さんがいてもいいけど、帰ってきて静かでも、たまにお出かけしてぜいたくさせてくれる母の方が私は、いいと思いました。

たまにきげんを悪くして帰ってくるお母さん、よく私の大好きなケーキを買ってきてくれるお母さん、自由研究を手伝ってくれるお母さん、優しいお母さん、こわいお母さん、まとめてこんな母が私は、世界で一番大好きです。

でも…父に
「お父さんは？」
って聞かれたら、私はこう答えます。

「お父さんも世界で一番に決まってるがいね」
って。私はNo 1の父と母をもつてとても幸せものだと思うし、若狭家に生まれてこれて本当によかったなって思います。

いつも言えないけど、お母さん、いつもありがとう、そしてこれからよろしくお願いします。